

LIFE × DESIGN

わたしらしい
ライフデザインってなんだろう?
自分で選ぶチカラが、
自分を生きるチカラに変わる



ライフデザインを考えるために

平成29年度ライフデザイン事業報告書

宮崎県 こども政策課

TEL:0985-26-7056

E-mail:kodomo-seisaku@pref.miyazaki.lg.jp

宮崎大学清花アテナ男女共同参画推進室

TEL:0985-85-1252

E-mail:info-athena@med.miyazaki-u.ac.jp

宮崎県こども政策課／国立大学法人宮崎大学

2018年3月

わたしらしいライフデザインってなんだろう?
自分で選ぶチカラが、自分を生きるチカラに変わる//

ライフデザインを考えるために

平成29年度ライフデザイン事業報告書

はじめに

Introduction

このパンフレットは、県内の大学・短大等の学生など若い世代の方に対し、一人ひとりのライフデザインについてイメージしてもらうために行なった「平成29年度ライフデザイン事業」の取組について紹介するものです。

これから的人生をどう歩んでいきたいか…このパンフレットを通じあなた自身の未来について考えていただければ幸いです。

目次

Content

コンセプト	01
ライフデザインアンケート	02
ライフデザインを考える出前講座	10
ライフデザインシンポジウム	12
宮崎県における少子化等の状況は?	16



“ライフデザインってなに?
それに、わたしらしいライフデザインなんて言われてもよくわからない…”

そんなふうに感じる人もいるかもしれません。
でも、難しいことではないのです。

ライフデザインとは、
自分がこれから歩んでいく人生の方角や距離、スピードを見定めること。

暮らすこと。働くこと。生きること。
それらは、とてもシンプルで当たり前のことのようにも思えますが、
そこにこんな変数を加えてみると…

「誰と」「いつ」「どこで」「どのように」

あなたのライフデザインの可能性はぐんと広がります。
そして、そこから、なにを選び取るかはあなた次第。

わたしらしいライフデザインってなんだろう?
そんなシンプルだけど、とても大切なことを考えてもらうことが、
このパンフレットの役割です。

これから迎えるかもしれない就職、結婚、家族との関係など…
「仕方ない」とネガティブに選ぶより、「私はこれ!」とポジティブに選んでほしい。
きっと、それがあなたの豊かな人生につながるはずだから。

さあ、自分で選ぶチカラを身につけて、あなたらしい人生を楽しんでください。

// 宮崎県内の大学・短大・高専に在籍する学生 //

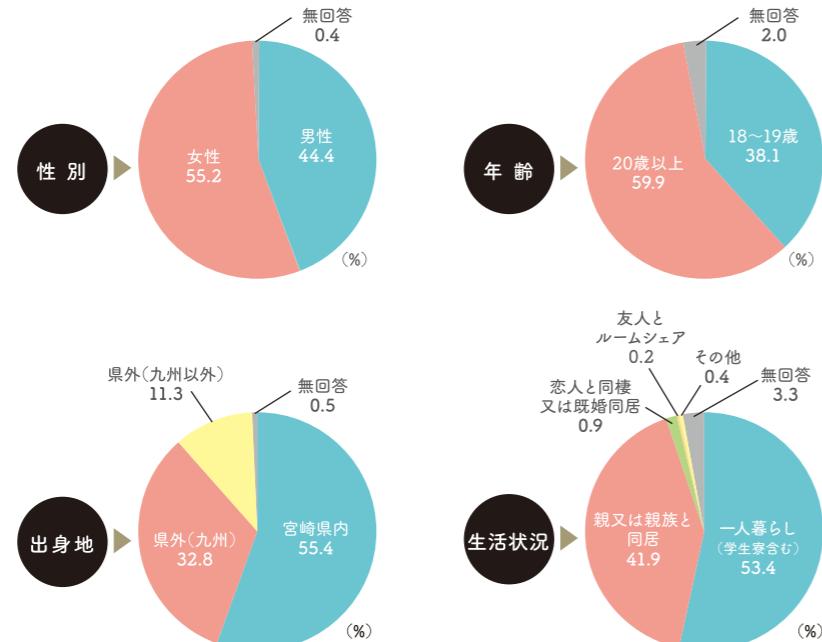
549人に聞きました!

ライフデザインアンケート～結果のまとめ

実施内容

- 実施時期：2017年10月～11月
- 協力機関：宮崎大学、宮崎県立看護大学、宮崎公立大学、宮崎産業経営大学、九州保健福祉大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学、南九州大学、南九州短期大学、都城工業高等専門学校 計10機関
- 配布数：1,026通
- 回収数：549通(回収率53.5%)

回答者の属性



このアンケート調査では、若い世代の方が結婚や出産・子育てなどのライフイベントに対してどのような意識を持っているかを把握するために実施しました。

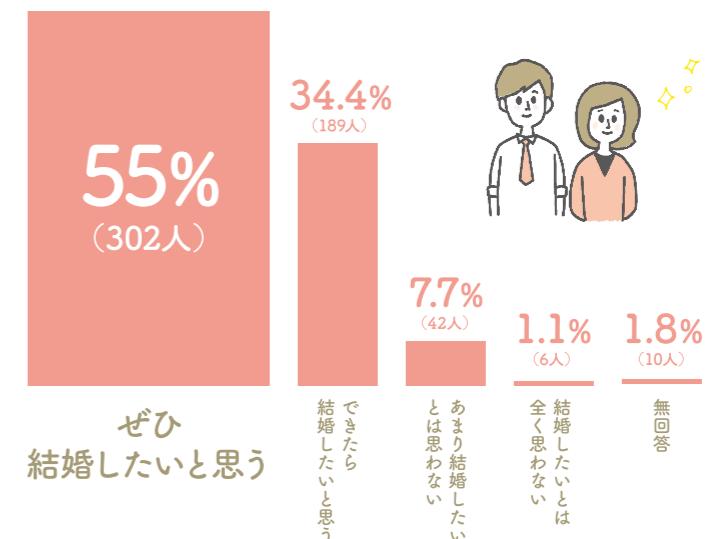
調査実施にあたっては県内の大学等高等教育機関にご協力いただき、549名の学生から回答を得ることができました。

これからさまざまな人生の選択を行うことになる皆さん、将来の人生や暮らしについて何を感じ、どのような期待と不安を抱いているのでしょうか…?

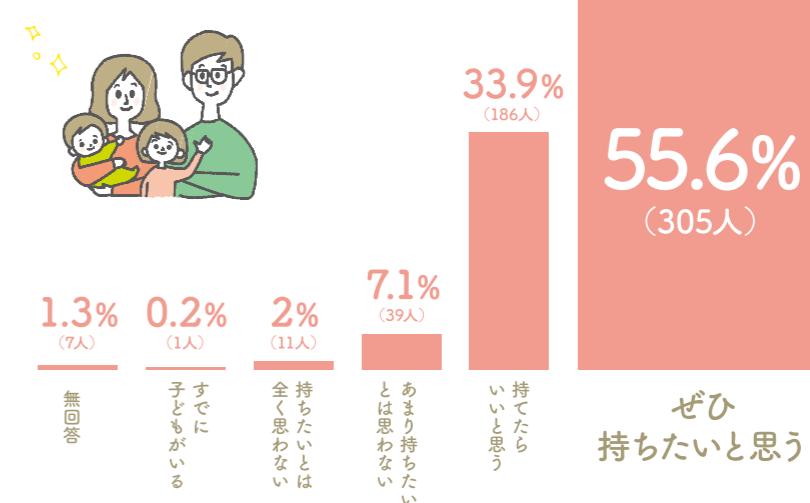
「子どもを持ちたい」と考えていました。

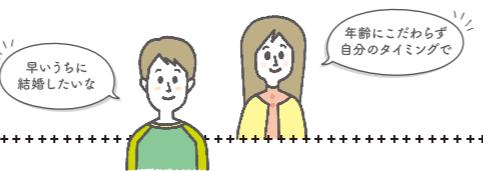
回答者の多くが「結婚したい」

Q. あなたは将来結婚したいと思いますか? (単数回答)



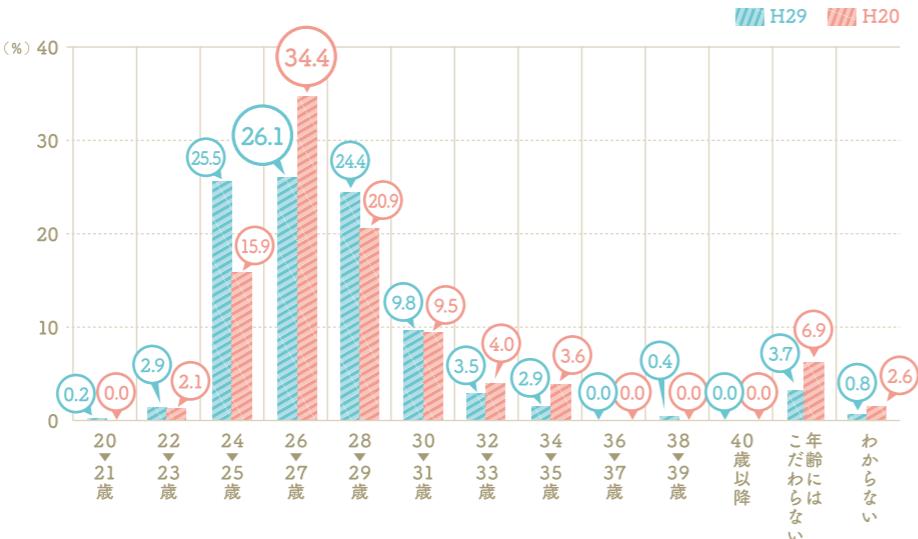
Q. あなたは将来子どもを持ちたいと思いますか? (単数回答)





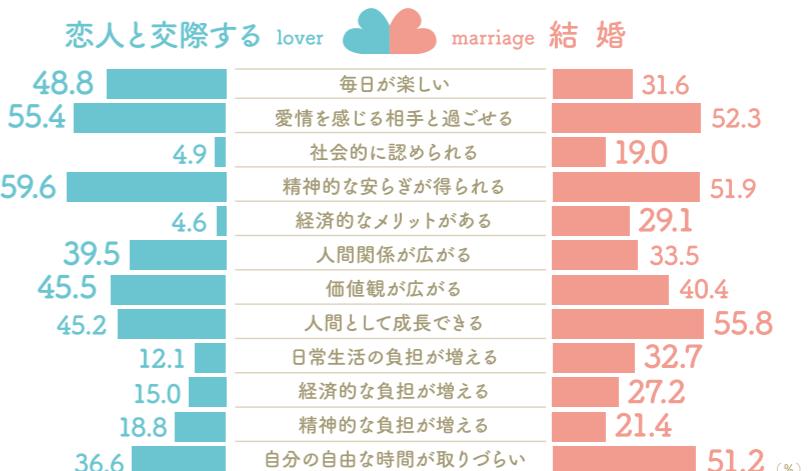
「20歳代のうちに」と考えています。
結婚や子どもを持つことを希望する人の多くが

Q. あなたは何歳くらいまでに結婚したいと思いますか。
「ぜひ結婚したいと思う」「できたら結婚したいと思う」と答えた人のみ (単数回答)

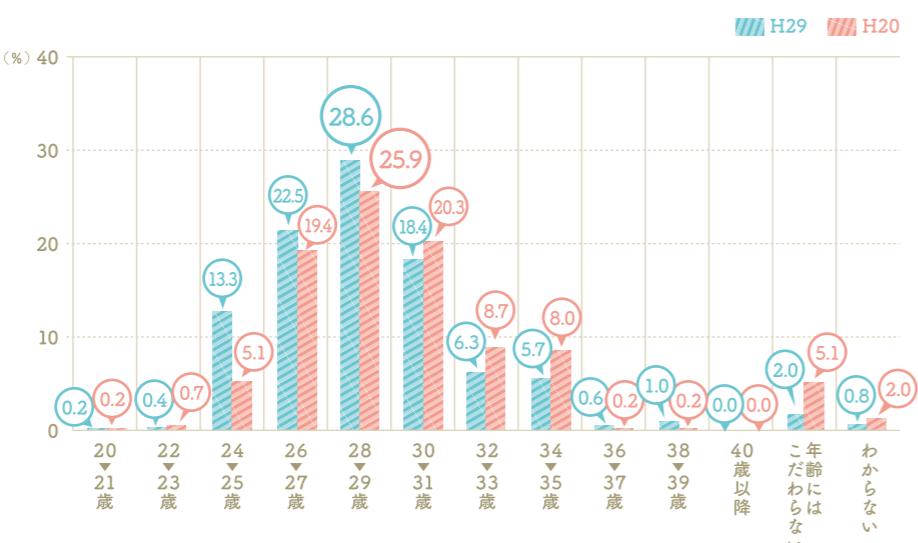


「交際」と「結婚」に対する
イメージは異なっています。

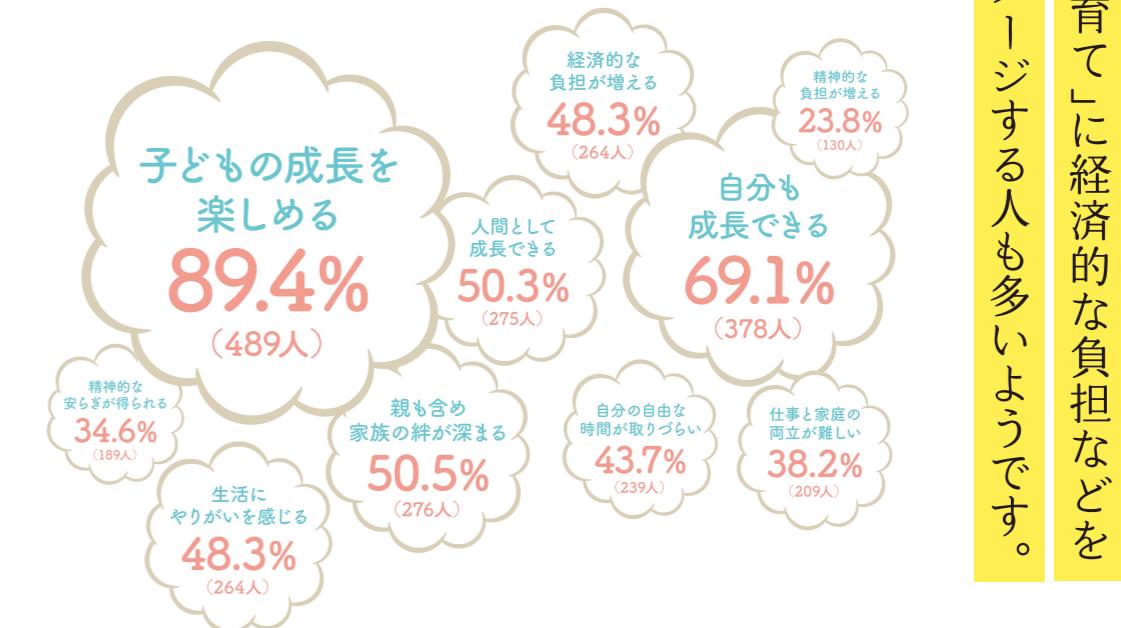
Q. あなたは「恋人と交際する」と「結婚」について、
どのようなイメージを持ちますか? (複数回答可)



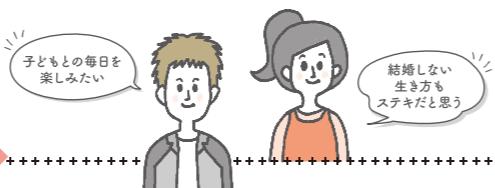
Q. あなたは何歳くらいまでに第1子を持ちたいと思いますか。
「子どもをぜひ持ちたいと思う」「子どもを持てたらいいと思う」と答えた人のみ (単数回答)



Q. あなたは「子育て」に対して
どのようなイメージを持ちますか? (複数回答可)



「子育て」に経済的な負担などを
イメージする人も多いようです。

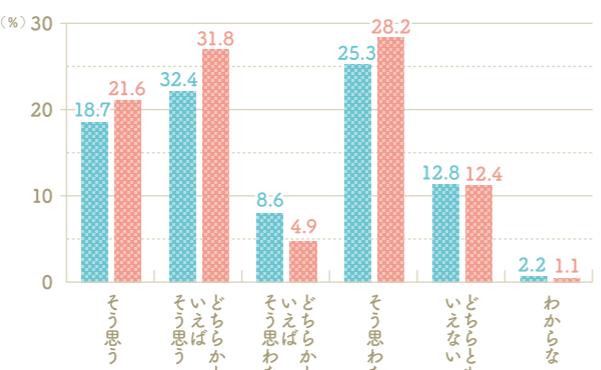
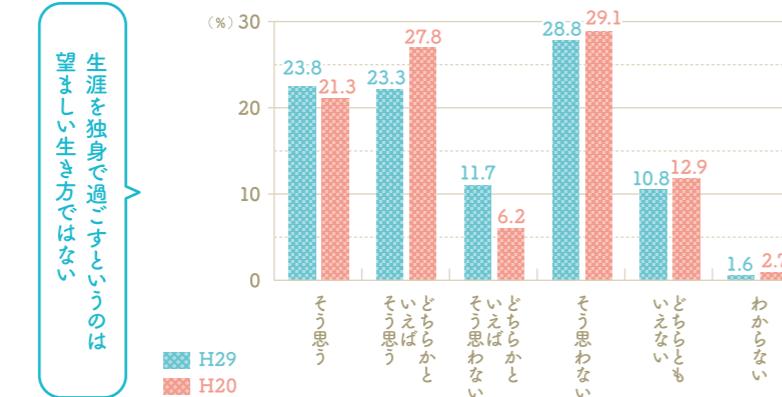


宮崎県内の大学・短大・高専に在籍する学生

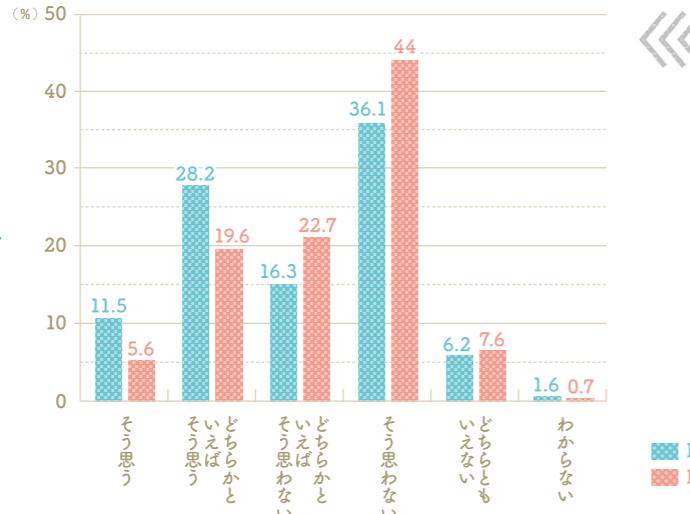
549人に聞きました!

「結婚しない」「子どもを持たない」：
ライフイベントへの考えは多様化しています。

Q. 次の考え方について、どのように感じますか。
自分の考えに最も近いものを選んでください。(単数回答)



結婚したら、家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である

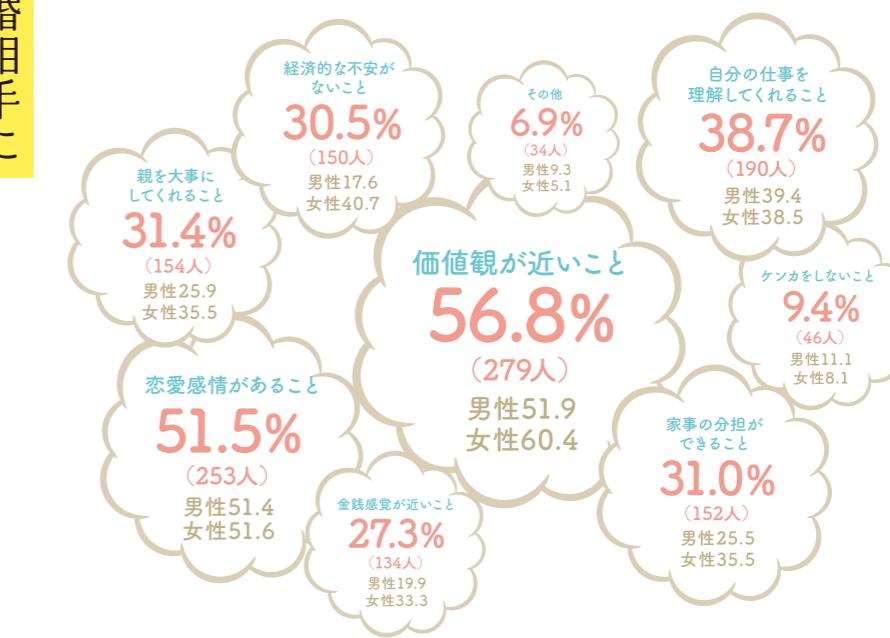


伴うと考える人も
多いようです。
結婚には自己犠牲も多い

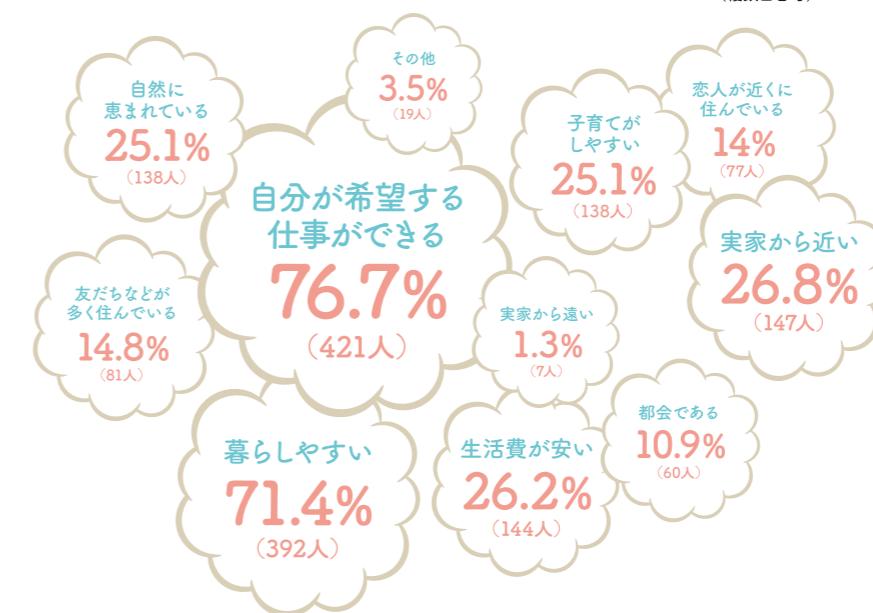
望む人も少なくありません。

「仕事への理解」「家事の分担」を
結婚相手に

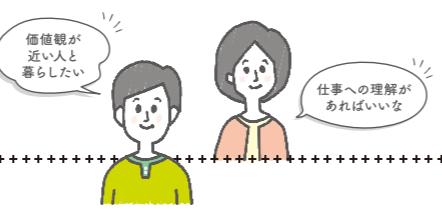
Q. あなたは、結婚相手に何を望みますか。
(「ぜひ結婚したいと思う」「できたら結婚したいと思う」と答えた人のみ)(3つまで回答可)



Q. あなたにとって、現在在籍している学校を卒業したあとで暮らす場所を決める上で重要な要素はどれですか。
(複数回答可)



「暮らしやすさ」が生活拠点を
考えるポイントのようです。
「希望する仕事の有無」



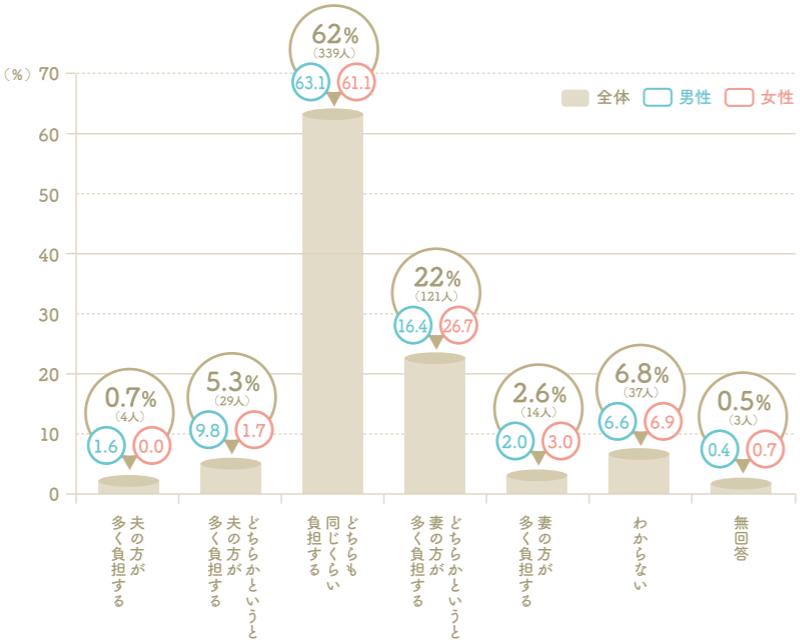
宮崎県内の大学・短大・高専に在籍する学生

549人に聞きました!

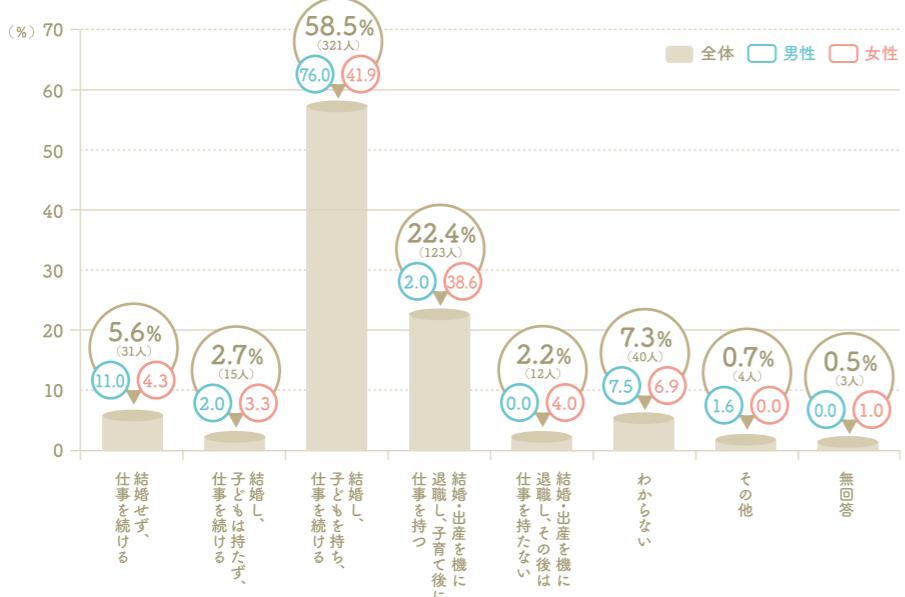
意識は男女ともに広がっています。

家事・育児を夫婦で分担するという

Q. あなたは、夫婦の間での家事や育児の負担について次のうちどれが望ましいと思いますか？（単数回答）



Q. あなた自身のこれから生き方・働き方として、次のうちどれが一番望ましいと思いますか。（単数回答）



これから希望する生き方・働き方は男女間で違いが見られます。

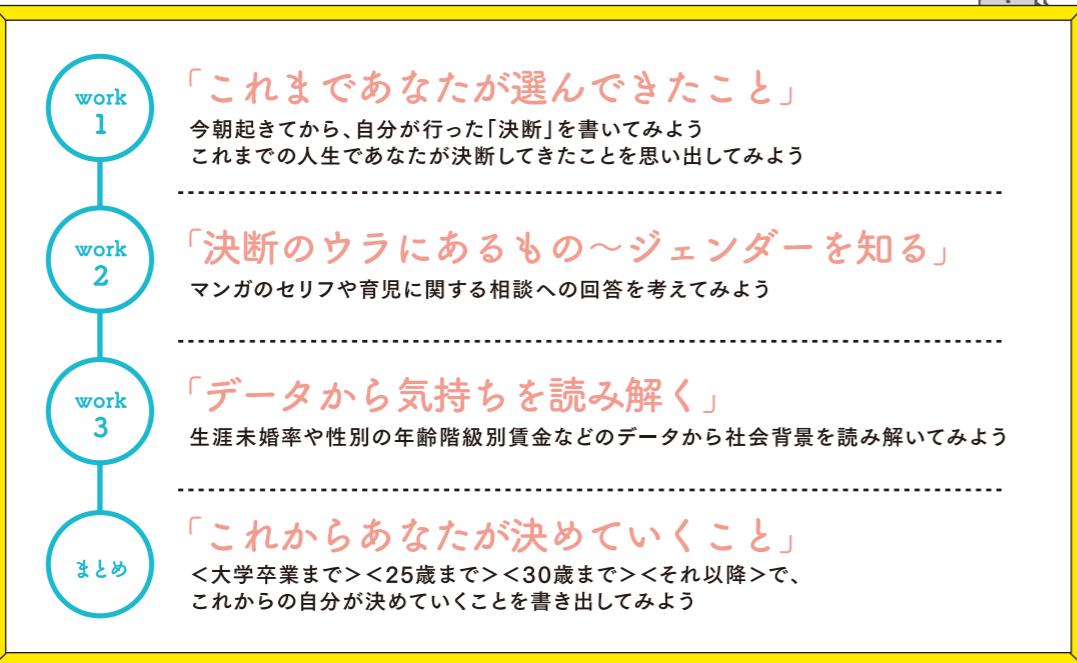
Q. 結婚、子育て、少子化について感じることや考え方などを教えてください。（自由記述）

- 今は結婚して子育てしたいという気持ちがあるが、就職して仕事面で生活が充実すればその気持ちも変わらかもしれない。（20歳／女性）
- 結婚も子育てもしたいが、キャリアを諦めることはできないのでタイミングが大事だと思う。（22歳／女性）
- 自分が結婚して、子どもを産んだときに子育てしやすい環境が整っていたらいいなと思います。（19歳／女性）
- 私は早いうちに結婚をして子どもが欲しいなと思っていますが、育児休暇などで仕事を長期に休んだ場合にすんなり職場復帰できるのかと考えることがあります。（20歳／女性）
- 結婚して上手いくか分からぬし、一緒に生活してが不安です。（20歳／女性）
- 結婚・子育てをすると自分の時間がなくなり大変なことだけだと思うが、それが日々の充実につながるのかなと思っています。（19歳／女性）
- 結婚や子育ては人生において重要なことのひとつだし、出来るならすべきだと思う。自分が大きく成長するチャンスをもらえると思う。（21歳／男性）
- 「結婚していない=ダメ」といったイメージはなくしてほしい。（21歳／男性）
- 実家など頼れるところがなく、「孤育て」をせざる得ない母親も多くいると思う。地域で子どもを育てる制度をさらに普及させれば良いと思う。（21歳／女性）
- 夫と妻で平等に家事・仕事・子育てができるといい。（20歳／女性）
- 結婚は幸せと言う人もいれば、結婚しなければ良かったという人もいるので、何が正解なのか良く分からないと思う。それぞれ価値観で決まると思う。（21歳／男性）
- 結婚や子育てに関して、「できたらしたい」が、今までお付き合いした人もおらず現実味がない。恋愛以前に人との関わのきっかけが少ない。（21歳／女性）
- 結婚や子育てについて積極的にしたいと感じるが、いろんなことが漠然としていて不安の方が多い。結婚や子育てが楽しいものだと感じられるような人生を歩みたい。（20歳／女性）
- 企業は、若きころに転勤や異動などで定住できないことがないようにしてほしいと思う。定住できる地があると、結婚・子育てがしやすくなると思う。（21歳／男性）
- 女性は結婚すると家事や育児ができる当たり前、逆に、男性が家事や育児をするとイクメンなど呼ばれるような風潮が気になります。男性が家事や育児を積極的に行なうことはとても良いと思いますが、家事や子育てを頑張っている女性・家庭を持っていない女性も認められるような環境になればいいなと思います。（21歳／女性）
- 事実婚、養子、同性愛など多様性があって、それぞれが選択できる、選択しやすい環境になってほしいです。（20歳／男性）
- 子どもを産み育てることは各個人の自由であり、それぞれの考えがあって当然だと思う。（20歳／男性）

「選ぶ」ことについて考えてみよう！

この出前講座のキーワードは、「選ぶ」こと。

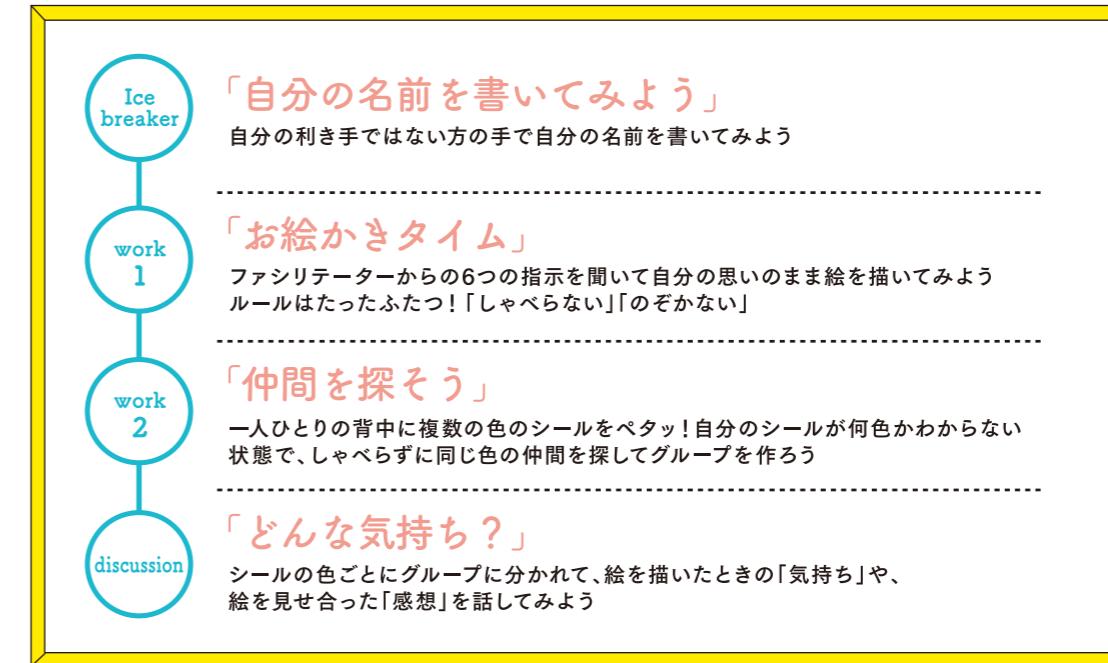
これまでの選択の積み重ねが一人ひとりの「今」を作り上げているということ、そしてその選択には自分の意思だけでなく、さまざまな社会的背景や「こうあるべき」という思い込みにも影響を受けているということに気付くきっかけとなったようです。



「メッセージ」で違いを知ろう、伝えよう！

この出前講座のキーワードは、「多様性の尊重」と「意識の外在化」でした。

さまざまなワークを通じて、自分と他者との「違い」を私メッセージ（“私”を主語にしたメッセージ）で伝え合うことの大切さに気付くとともに、その「違い」を尊重し受容する環境をつくることの重要性について考える場となったようです。



△△ 活動の様子 △△



2017年11月17日
宮崎公立大学
1・4年生(52名)
(ファシリテーター)
NPO法人ドロップインセンター
黒田奈々さん
宮崎大学 清水鈴代



2017年11月17日
南九州短期大学
1・2年生(25名)
(協力)金湛先生
(ファシリテーター)
NPO法人ドロップインセンター
黒田奈々さん



2017年12月19日
宮崎大学
1年生(32名)
(ファシリテーター) オフィスビュア高崎恵さん



2018年1月18日
宮崎大学
2・3年生(9名)
(協力)
地域資源創成学部
足立文美恵先生
(ファシリテーター)
宮崎大学 清水鈴代



2018年1月19日
九州保健福祉大学
1・2年生(20名)
(協力)
社会福祉学部
日田剛先生
(ファシリテーター)
宮崎大学 清水鈴代

△△ 受講生の声 △△

- 自分の将来は、誰かに決められるのではなく自分で考えて決めていきたいと強く思った。今の社会の変化にも気付いていきたい。
- 子育てや家事はどちらか夫婦で協力して行うものだし、それが子どもに良い影響を及ぼすと思うから、2人でよく話し合って行うべきだと思った。相手の仕事に対する理解を深めればよい関係を築けるかもしれない。
- 「自分のライフデザインを作る」というと難しいことのように感じたが、自分の将来ありたい姿を考えるのはとても楽しかった。
- 日本人は自分の思いや考えを持っていても、内在化する傾向にあると言われ、自分もそうだとドキッとした。これからは、「違い」を認める社会になるべきだと分かった。
- 自分はあまり人と話すのが得意ではないが、自分から働きかけてコミュニケーションをとることが、環境を変えていく力を持つと感じた。

“逃げ恥”と考えるわたしらしい生き方

～自分で選ぶチカラが、自分を生きるチカラに変わる～

日 時 / 2018年2月24日(土) 13:00~16:00

会 場 / 宮崎大学 創立330記念交流会館 コンベンションホール

参加者 / 約120名

大学生アンケート結果報告

Comment
『恋愛と結婚は別』と考える人が多い反面、結婚する相手には『恋愛感情があることを求められる』という結果。皆さんなんにを結婚の決め手はなにをしているのだろう?

Comment
子育てに対して、マイナスのイメージを持っている人は男性より女性

Comment
私たちのような世代にとっては親をはじめとする周囲の大人が考え方方が大きく影響するのでは?

Comment
自分と異なる意見も尊重し、人それぞれの多様な生き方が認められる社会になってほしい!

Comment
徹底的に分析しました!

// ワークショップ //

大学生アンケート結果報告でも取り上げた質問を切り口にしたワークショップを実施しました。

あらかじめ配布した赤・青のカードを使って会場の皆さんにも参加していくだけというもので、それぞれが悩みながらも楽しんでもらえたようです。



〈ファシリテーター〉
エフエム宮崎 講憲太さん
ライター 佐藤結衣さん



提示する質問に対して
「そう思う」という方には赤いカード、「そう思わない」という方には青いカードを挙げもらいました。

LIFE × DESIGN

Q. 生涯を独身で過ごすというのは望ましい生き方ではない

{ 「そう思う」 ▶ 約3割 }

「そう思う」と答えた参加者の声

社会を維持していくには結婚して子どもを増やさないといけないと思うので。(男性)

自分自身に子どもを持ちたいという理想があります。そのためには結婚したいなと思ってこちらを選びました。(男性)

{ 「そう思わない」 ▶ 約7割 }

「そう思わない」と答えた参加者の声

自分の周りに独身で過ごしている人が多いということがあるかもしれないけれど、独身でいることも一つの生き方としてありかなと思います。(女性)

幸せに暮らせるなら独身かそうでないかにこだわらなくていいのでは。(男性)

Q. 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

{ 「そう思う」 ▶ 約1割 }

「そう思う」と答えた参加者の声

自分が、質問にあるような家庭を築いてきました。いろんな考え方を認めないといけないなと思いながらも、ここで青(=そう思わない)を挙げると自分を否定してしまうような気がしたので赤(=そう思う)を挙げました。(男性)

{ 「そう思わない」 ▶ 約9割 }

「そう思わない」と答えた参加者の声

我が家も妻が働いていて家事・育児は共同で行うという毎日なので、妻が家庭を守るべきだという意識は全くないです。(男性)

シンポジウム

// トークセッション //

2016年秋に放送され幅広い世代で話題となったテレビドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」(以下「逃げ恥」)の原作者である海野つなみさんと、ライターとして活躍中の佐藤結衣さんをゲストに迎えてのトークセッション。「逃げ恥」の印象に残ったエピソードやセリフを振り返りながら、家族の多様化とそれにまつわるライフイベントについて率直に意見を交わしました。

〈ゲスト〉漫画家 海野つなみさん 〈進行〉エフエム宮崎 膳 憲太さん
ライター 佐藤 結衣さん

Pick up!

結婚に対する選択、 あり方もそれぞれ

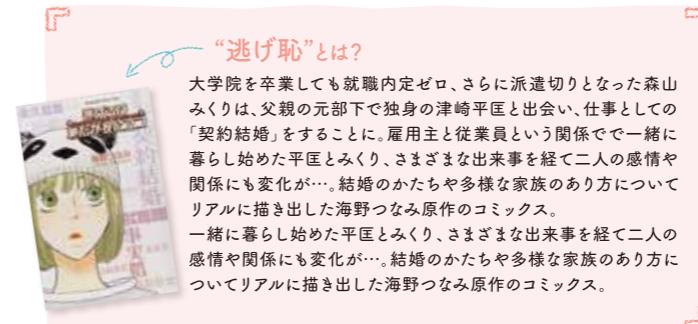
佐藤さん

「結婚しないといけない」と思うこともありました。世の中にはそうではない道もたくさんあると思うようになりました。生き方はひとつではないと思うし、今日の前にある選択肢の中でだけ選ばなくとも、自分が「こうなったらいな」と感じることを実現していくのになれば…と思います。

海野さん 「〇歳ぐらいで結婚して、子ども産んで…」という理想を持ち、それに沿って生きるのがいいという人もいれば、それを「じんどい」と思う人もいます。

膳さん 結婚もそれぞれの人に合うかたちがあるはずですよね。

佐藤さん 本人同士が「これが私たちのスタイルだね」と納得できるかたちがつくれるといいのかなと思います。



LIFE × DESIGN



色々な考えがあるね

Pick up!

自分で選んだことに、 自分で責任を持つ

膳さん

さまざまな選択肢、生き方がある中で、自分の選択なら責任を持つことができると思うんです。周りに何を言われようが自分が選んだものは、自分が「いい」「幸せ」と思っているもの。だからこそ、自分で選ぶ力を身につけてほしいですね。



海野さん 結婚していくのもしていなくても、仕事をしていくのもしていなくても、楽しく生きようと思いながら選択する。その積み重ねを続けることで、「私の人生、楽しかった」というところにたどり着けるんじゃないかなあと思います。

シンポジウム

// 参加者の声 //

自分の将来を見つめ直すきっかけとなった。特に、恋愛や結婚のあり方についてたくさんの考えがあるのを知り、自分の考えとは違っても、その「違い」を尊重できるようになりたいと感じた。
(10歳代／男性)

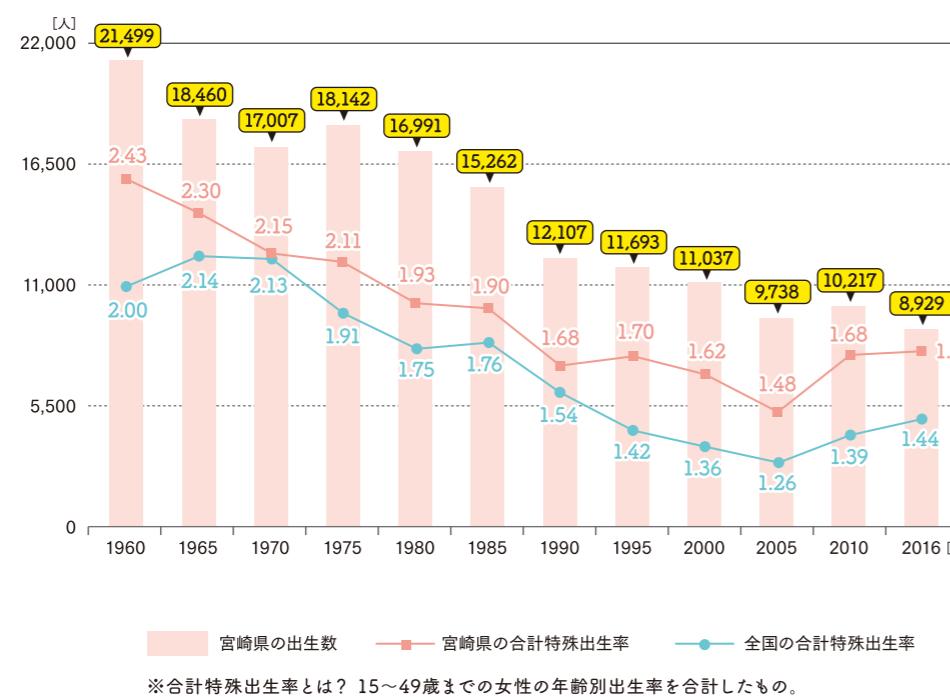
他の人の意見を聞くことで結婚や将来に対する視野が少し広がったような気がします。
(20歳代／女性)

これから未来に向かって歩いていく学生にライフデザインについて考えてもらい、意見を発表してもらう機会がもっと増えるといいなと思いました。
(30歳代／女性)

多様な生き方が肯定されているとはいって、まだ性別役割分担意識がしっかり刷り込まれているような気がします。親世代の結婚、家庭のあり方だけではなく、もっと多様な家族のあり方や生き方について知ることが必要ではないでしょうか。若い世代にこういう話題にもっと聞いてもらって、「自分で選ぶ力」を身につけてほしいです。
(50歳代／女性)

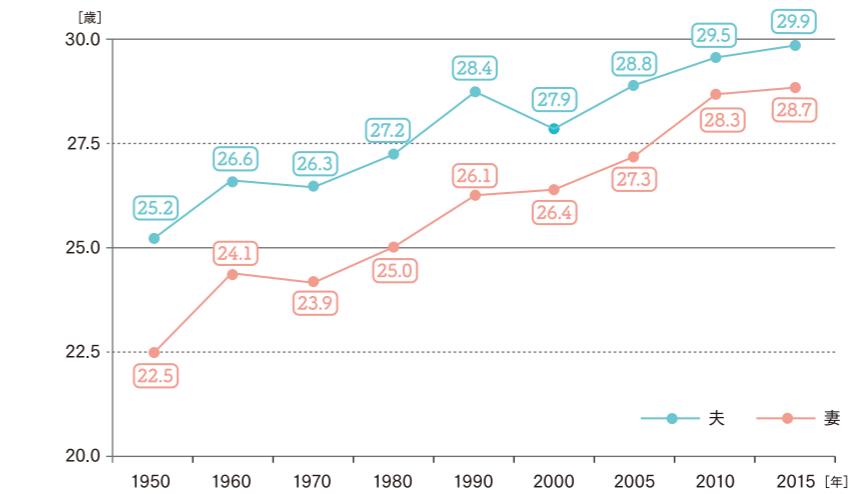
宮崎県における少子化等の状況は？～データから動きを読む

【DATA1】
1年間に生まれる子どもの数は徐々に減っています
合計特殊出生率※も全国的には高い水準にあるものの、
人口維持に必要とされる2.07を下回る状態が続いています



※合計特殊出生率とは？ 15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。

【DATA2】
初婚年齢は少しづつ上昇しています



【DATA3】
生涯を通じて結婚をしない人が増えています

